

調査研究部主任研究員 山口英男

●住宅建築業界、製材業界は「冬の時代」

富山県の住宅建築業界、そして製材業界は厳しい環境変化に見舞われている。

新設住宅着工戸数をみると、全国の数値ながら、平成20(2008)年の109万3000戸から平成21年には78万8000戸へと減少。平成22年はやや持ち直したものの81万3000戸にとどまっている。

一方で、富山県は全国でも有数の北洋材の輸入基地として位置づけられてきた。しかし、ロシアは自国産業保護政策を強め、原木の輸出関税を6.5%から現状は25%にまで引き上げた。

また、中国の北洋材の大量買い付けの動きもみられることもあり、富山県の北洋材の入荷量は年々減っている。北洋材の製材用素材入荷量をみると、平成17年の80万4000㎡から平成21年には28万5000㎡にまで大きく落ち込んでいる。

このように、わが国の住宅メーカーや製材業者の多くは、厳しい環境変化に喘いでいる。

その中で、富山県において1つは木造注文住宅メーカーとして、もう1つは製材業者としてその存在感を鮮明に打ち出している企業がある。

本稿では、個人の木造注文住宅の設計・建築を手掛けるアルスホーム株式会社(本社:富山市)と木造住宅資材供給業・製材業のウッドリンク株式会社(本社:射水市)を取り上げる。

●修羅場体験がなければ感動も生まれない

製材業を営んでいたウッドリンク(株)の社長(現会長)である原野省三氏は、昭和60(1985)年5月に個人住宅の販売代理店として新会社を



アートとテクノロジーの融合 アルスホーム  
設立した。現在のアルスホーム(株)である。

原野社長は販売代理店では飽き足らず、自ら「美しい家」づくりを手掛けたいとの想いを強く秘めていた。平成4(1992)年、社名をアルスホーム(株)へ変更。高品質の木造注文住宅の設計・建築に挑み、本物の住宅づくりを志向した。

アルスホーム(株)のスタート時は、試練に次ぐ試練の連続だった。同社は木造住宅建築業、ウッドリンク(株)は製材業、同じ「木」を扱う業界といっても勝手が違う。まして、富山県人の住宅に寄せる想いは並大抵のものではない。

「顧客が本当に満足する家をつくるには、何をどうすればいいのか」試行錯誤を繰り返す日々。しかし、そうした中で、アルスホーム(株)が進むべき方向は明確になった。原野社長のベクトルは低価格を目指すのではなく、「上質な日常を愉しむ暮らし」を中心に置いた、中高級注文住宅という方向に伸びた。

今では、同社は「注文住宅を手掛ける面白さ」を実感する。完成したお客様の住まい一邸一邸が同社とお客様との、この世に一つしかない「協働作品」として存在していく。ここにその責任の重さとともに、この仕事のやりがいがある。

一方、ウッドリンク(株)は昭和22(1947)年6

月に原野社長の父君である故・原野省一氏が高岡市丸の内に「原野製材」を個人創業したのが始まりである。昭和30年3月に原野製材株式会社を設立、昭和46年より北洋材を取り扱い始める。

品質による差別化が困難なためにコスト競争にしのぎを削ることで生き残りを図る側面が強い北洋材ビジネスの世界で、同社は、他社に先駆けて設備投資に力を注いだ。

製材部門では製材工程自動化ライン、KDラインやFJライン、住宅資材部門ではプレカット化、プレウォール化などの効率化を推し進めることで、この苛烈な世界を勝ち抜いた。

設立50周年となる平成17（2005）年には、社名を原野製材(株)からウッドリンク(株)へと一新。更なる成長を期したのである。

しかし、両社とも試練の時はこれからも続く。

アルスホーム(株)の前には、景気動向や人口減少による住宅市場の縮小が立ちはだかる。石川へ進出し、この状況を打開すべく努力している。

ウッドリンク(株)においては、ロシアの原木に対する輸出関税引き上げがやはり大きな障壁である。これに伴い、国産スギ材への全量切り替えというビジネスモデルの大転換を強いられ、七転八倒しながら、それを進めている。

しかし、原野社長は言う。「修羅場体験がなければ、感動は生まれえないし、成長もない」

### ●社員が働きがいの持てる会社になりたい

「ビジネスの性格としては、製材業はB to B、住宅建築業はB to C。製材業からスタートした私達は、住宅建築業をも営むことでエンドユーザーとの接点を持つことができた。木を扱う世界の、川の上流から下流まで網羅することで、全体に好循環が生まれた」

原野社長は、これまでの歩みを振り返りなが

ら語る。「社員が主体性を持つことで、幾多の試練を乗り越えてきた。しかし、この先も、新たな試練が待ち構えていることも分かっている。だからこそ、今後ともこれまで以上に人材育成に力を注がなければならない。社員の人間力の向上が、そのまま会社の推進力に直結する」

かつて、原野社長はある新聞の投書欄の言葉に目を、そして心をも奪われた。

微力なら、微力なりに

自己の力を最高に生かしきれ

好きで熱中でき、喜びが感じられ、

なおかつ その仕事が

命をつなぐための パンとなり、

人のためとなる。生きるとは、

そういった時間の積み重ねでありたい

まさに働くものとしての原点であり、働くことの意味を端的に表している。原野社長にとって、社員にいつまでも心に刻み付けておいてもらいたい言葉である。そしてこれは、両社の企業理念である「ES（社員の満足）＝CS（お客様の満足）」へと昇華した。

最後に、原野社長は言う。「社員が本当に働きがいのある会社にしていきたい。でも、まだまだ道のりは遠いよ」

#### 企業概要 アルスホーム株式会社

所在地 富山県富山市婦中町島本郷1ノ1  
 代表者 代表取締役社長 原野省三  
 設立 昭和60年5月  
 資本金 8000万円  
 従業員数 78人  
 事業内容 木造住宅建築業

#### 企業概要 ウッドリンク株式会社

所在地 富山県射水市寺塚原415  
 代表者 代表取締役社長 原野哲雄  
 設立 昭和30年3月  
 資本金 7500万円  
 従業員数 133人  
 事業内容 木造住宅用資材製造・販売業  
 国産材・北洋材製材業